

球磨村立義務教育学校について ～地域とともに未来を拓く 創造的復興をめざして～

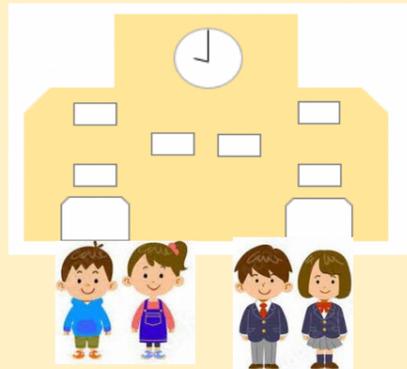
球磨村教育委員会

1 学校施設基本構想について

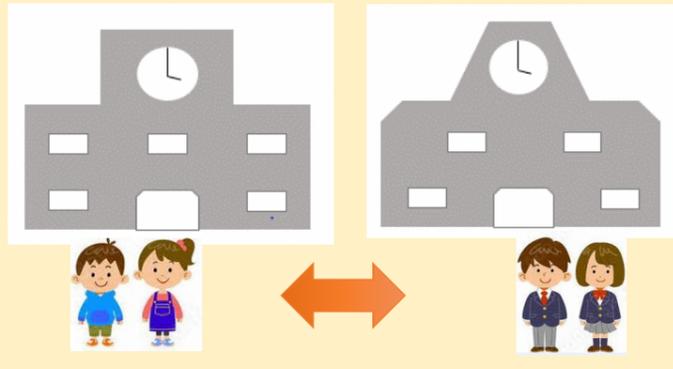
今回、義務教育学校体制でのより良い教育環境を目指すため、学校施設のあり方及び校舎予定地選定に必要な情報を整理し複数の候補地を比較検討するとともに、今後の設計業務を速やかに行うことを目的として基本構想を策定しました。

義務教育学校の施設形態は主に2つ

①施設一体型



②施設分離型



9年間を一貫した義務教育学校を運営していく上で教育活動の取組を充実させるためには、施設的な配慮が重要です。施設面の課題としては、児童生徒の発達段階に応じた施設的な配慮、児童生徒の交流促進、教職員の小中一貫した運営体制への対応、保護者・地域住民の活動拠点としての機能などが挙げられます。

一体型施設は新築で面積的な余裕もあり、施設的な工夫も多くみられるため、学校現場の評価は高く、児童生徒及び教職員における施設面の総合的な満足度は他の形態に比べて高い傾向にあると評価されています。

一体型施設が、分離型施設よりも満足度が高い要因

- 校舎間を行き来する必要がないため、教職員や子どもたちへの負担が少なく安全面にも優れている
- 校舎間を行き来する必要がないため、乗入授業が容易である
- 職員室が施設内で一つになるため教職員の情報共有や打ち合わせなど細かい連絡調整が容易である
- また、小・中それぞれのよさを引き出し、教職員間の相互理解を深めるためにも職員室は同じほうが良い
- 施設に打ち合わせや多様な活動をするための教室のゆとりが確保できる
- 学校全体の教職員が一同に会し、会議等を実施できる十分なスペースが確保できる
- 図書室等の住民利用を考えたとき、設計するうえでの配置が効率的に進められる

よりよい教育環境を目指し、

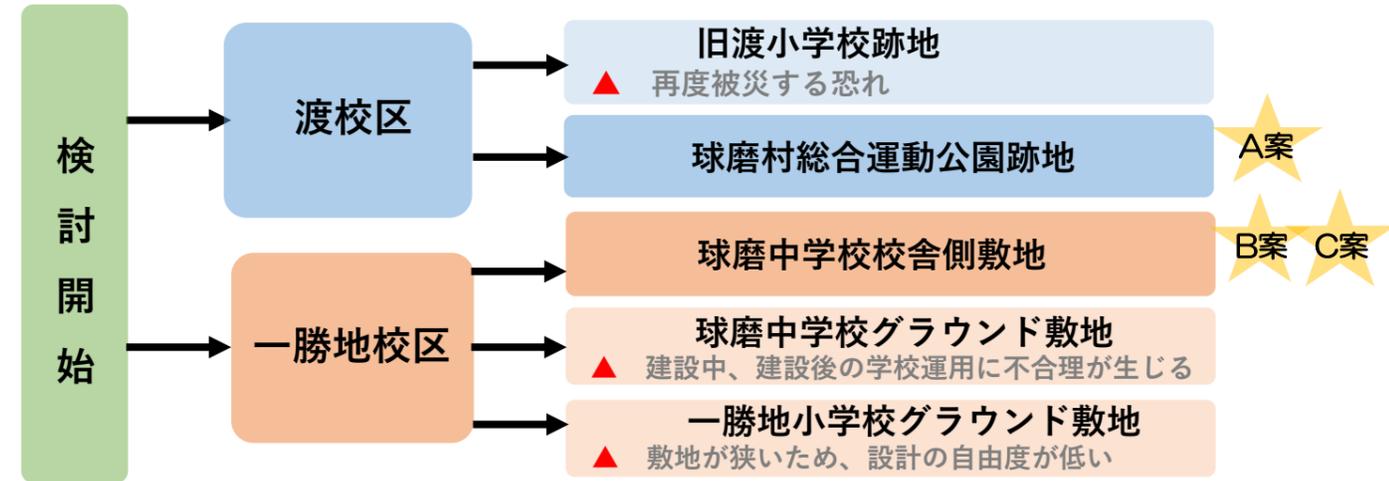
一体型校舎の場所や機能、概算工事費など

具体的な例を示しながら今後の学校施設のあり方を検討。



2 建設予定地検討フローチャート

安全面等を踏まえ、以下の通り案を3つに絞り込みました。



3 各案の概要について (裏面をご覧ください)

4 今後の展望

一体型校舎について基本構想の中で総合的に勘案しながら、検討を進めました。既存校舎については、球磨中学校は築45年を経過し、近い将来大規模改修等が必要になります。裏面に記したように今現在は災害復旧費用が活用できるため、村の費用負担をより少なく校舎を建設することができます。しかし、補助金が活用できるとしても村の費用負担は発生します。既存校舎を改修・活用しての施設分離型校舎使用も視野に入れながら、子供たちにとって、また球磨村に住んでいる皆さん一人ひとりにとって一番最適な学校施設を整備する必要があると考えています。

球磨村立義務教育学校開校準備委員会



令和6年度からの義務教育学校体制へスムーズに移行するため、開校準備委員会では5つの部会（総務部会・通学部会・教育課程部会・PTA部会・事務部会）を編成して調査や協議を進めています。総務部会では、学校名を募集し、84件の応募をいただきました。いただいた応募の中から、小中学生の意見を聴取するなどして絞り込み、近日中には新しい学校名が決定する予定です。開校準備委員会の様子は広報などを通して皆様にお知らせしていきます。

各学校 閉校実行委員会

各学校の閉校実行委員会は、各校への感謝を込め閉校記念事業を実施するため、教職員と地域関係者などで組織し、それぞれの学校で結成されています。閉校に向けては、卒業生や校区の皆さんの心に残る記念の事業を計画しています。令和5年度末の閉校に向けて、住民の皆様にもご支援いただくことがあると思いますのでご協力をお願いします。



アンケートの協力をお願いいたします。

3 各案の概要について

A案 【渡地区】 球磨村総合運動公園に校舎を新築する案

さくらドームを解体。校舎、体育館、プール等を建設。総合運動公園を学校グラウンドとして活用。

(1) 概略計画図

項目	詳細
解体建物	さくらドーム、球磨中学校
仮設校舎	不要
メリット	高台にあり、河川浸水想定レベル2に対応 住宅地に近く徒歩通学の児童生徒が増える
デメリット	球磨村の東端にあり、児童生徒の通学時間に差が生じる地域もある
工事期間	約12か月（約1年）
災害時のインフラ	幹線道路である国道219号線に近く、復旧が優先的に進むことが考えられるため、早期の学校再開が見込まれる
河川浸水想定	L2（1000年に1度）に対応（校舎の一部がイエローゾーン）
工事期間の校舎管理	既存校舎利用で良好（工事騒音がなく、工事によるストレスはない）
概算工事費	約46億円程度

B案 【一勝地地区】 球磨中学校を解体し、校舎を新築する案

仮設校舎を建設し、一部の児童生徒が仮設校舎で学習。並行して球磨中学校を解体し、校舎を新築する。体育館、プールは既存施設を活用。

(2) 概略計画図

項目	詳細
解体建物	球磨中学校
仮設校舎	中学校で学習する児童生徒分の仮設校舎が必要
メリット	村の中心部に位置
デメリット	河川想定レベル1に対応できるが、河川浸水想定レベル2には対応できない
工事期間	約30か月（約2年半）
災害時のインフラ	周辺の河川が氾濫し通行止めになった場合、橋の復旧には時間を要することが考えられ、一定の期間登校ができない
河川浸水想定	L1（100年に1度）に対応（全敷地がイエローゾーン）
工事期間の校舎管理	運動場などの広い範囲に仮設校舎が必要となり、工事期間中に運動場利用を検討する必要がある 工事騒音の問題がある
概算工事費	約35億円程度

C案 【一勝地地区】 球磨中の一部を解体、増築し既存部分は改修する案

仮設校舎を建設し、一部の児童生徒が仮設校舎で学習。並行して球磨中学校を解体し、新校舎を増築する。残す校舎部分は改修。体育館、プールは既存施設を活用。

(3) 概略計画図

項目	詳細
解体建物	球磨中学校
仮設校舎	中学校で学習する児童生徒分の仮設校舎が必要
メリット	村の中心部に位置
デメリット	工事期間のグラウンド利用に課題、および現校舎部分にグラウンドを整備するには異形であり整備費用が高額
工事期間	約38か月（約3年2か月）
災害時のインフラ	周辺の河川が氾濫し通行止めになった場合、橋の復旧には時間を要することが考えられ、一定の期間登校ができない
河川浸水想定	L1（100年に1度）に対応（全敷地がイエローゾーン）
工事期間の校舎管理	管理部門との動線の連結が不便であり、工事騒音の問題がある
概算工事費	約26億円程度

各案、最短でのスケジュール



一体型校舎と災害復旧費

一体型校舎を建設するには多くの費用が必要です。今回、渡小学校再建に係る復旧事業費については、国がその多くを負担することが決まりました。これは、本来現地原形復旧が基本であるところ、公立学校施設災害復旧費国庫負担法に規定する「原形復旧することが著しく不相当である場合」と判断されたため、豪雨による浸水被害で被災した学校では、今まで例のないことです。

全国で初めて豪雨による浸水被害での移転再建が認められた

そのため、厳しい財政状況の中の村負担は軽減されます。一体型校舎を建設する場合災害復旧費用のほか、国庫補助金等を活用し、村の負担が最小限になるよう進める必要があります。

村の持ち出し費用はどの案も大きくは変わらない

災害復旧費用、国庫補助金および起債等を活用するようにシミュレーションを行ったところ、どの案も最終的な村の持ち出しは大きく変わらないことがわかりました。（事業費に対する補助金がA案>B案>C案となるため）